



1 (漢字)

1から10までの漢字は全て、ベーシックのトレーニンングの部分で出題されているものである。復習テストで正解していたのに間違えたという場合は、時間をおいて見直しに取り組みようとするといいたいだろう。漢字を覚えるときに言葉が表す様子やその言葉が使われる状況をイメージして覚えると知識として定着しやすい。

2 (主語)

主語を問う問題であったが、もちろん述語を先に見つけないといけない。今後も主語を問う問題は多く出題されるが、文節の終わりに「を・に・と・で・へ」のような言葉がついている場合は主語ではなく修飾語になる。

3 (文節)

文節について知っておくとこれからの品詞の学習や、ぬき出し問題でどこまでをぬき出せばいいかという見当づけや、記述の問題の答えを読みやすくまとめるときなどに役に立つ。1は「なる」と「そうだ」を分けない。2は「見て」と「泣いた」で分ける。5は「かばんの」と「ひも」を分け、「くわえて」と「いる」も分ける。

4

1 線部①「人」は一人の人の形からできた字である。——線部②「健」は人間、および人間の行為や動作を意味する「にんべん」と、「ケン」という読みがある「建」を組み合わせてできた字である。

2 言葉づかいが上手になりたい、という考え方を「裏から見れば」どのように表現できるのか。紛らわしい選択肢に惑わされることのないようにしたい。上手になりたい、と考えるのだから、自分は上手ではないと思っているのである。

3 使わない選択肢を答えることに注意。「一般的に勉強を教えるのは学校、しつけをするのは家庭と考えられている。《C》に「地方」を入れてしまうと、人はみな地方に出て仕事をするようになってしまう。

5

1 接続語のあなうめ問題では前後の内容をおさえ、どのようなつながりになっているのかを判断しなければならぬ。

2 線部①の直後の一文は、交通事故が少ないローマ市内の様子を述べたものであってこの問いに対する答えとしては使えない。交通事故が少ないこと理由はそのあとの「なにしろ」以降、ローマっ子の説明から始まる。ここよりあと、「というわけで」からはじまる部分に、交通事故が少ない理由がまとまって述べられている。

3 日頃から辞書などを活用し、さまざまな言葉にふれておきたい。文章の中で目にした表現をすかさずおさえおけば、他の文章を読む際にも役立つだろう。

4 I 線部③の直前では、筆者は自分のことを「ローマっ子的になっていた」と述べている。ローマの歩行者の様子が説明されている、さらに前の段落を手がかりにして考えよう。

II 線部③の直後から、ドイツ人の国民性や車の運転の様子が述べられている。「信号」などを不用意に答えてしまった者は、「上の漢字と下の漢字が似た意味の組み合わせ」といった設問の条件をていねいに読み取ることが心がけてほしい。「規」は手本・きまりという意味、「則」は手本として守りしたがうものという意味を持つ漢字である。

5 「ラテン気質」はイタリア人(ローマっ子)を、「ゲルマン気質」はドイツ人をあらわす。それぞれの(十)面が述べられた選択肢を選びたい。長所とあるので、(二)面を指しているア・エは不適當である。

6

1 文学的文章では、登場人物のイメージについて新しい情報が出てくるとイメージをより濃くしながら読み進めていってほしい。今回の文章では、一人の人物が様々な表記であらわされていたので、同一人物であると判断できたかもポイントとなっていた。ウの内容は渡の特徴として書かれていたものであった。

2 1と同様に、②の直後の「東大生」が、酒井のことであると読み取れないといけない。そのうえで、文脈にあてはまる言葉を考えながら、酒井に関する情報をさがしていくこととなる。他の講師たちが知っているユイちゃんのかかえる問題について、酒井だけが知らなかったのである。直前直後だけを見て、他の部分と矛盾する選択肢を選んではいけない。イは「他人に興味をなさそう」な、ウは「早くバイトを終えて帰りたい」、エは「指名されたこと」にまつている「それぞれ違う」。

3 酒井の話を聞いているときの「渡さん」の行動について描写した言葉を入れる。Cの直後の「それ以上まごつけば」慌てたように、やや早口で言った「からもわかるように、酒井のなかなか本題に入ろうとしない話し方に、だんだんいらいらがついていく様子をイメージしたい。

4 心情の読み取りの問題では「出来事↓心情↓表出(発言や行動など)」の流れを意識しよう。今回は——線部③やそのあとの酒井の発言から、納得できないことに腹を立てているという心情は読み取れたはずである。では何に納得できず、腹を立てているのかと考えて前後を見ると、ユイちゃんの件について自分が報告したことを、「結構です」と受け流されたことによるものだとわかる。

5 ④の直前の「親の」という言葉もふくめて、ここには「親から暴力を振るわれている」といった内容が入ることを、ここまでの流れからつかんでほしい。文学的文章でも「今、何が話題となっているか」を考えながら読んでほしい。

6 岸田ユイが、両親に暴力を振るわれているという嘘をついていることは、文章全体の中心的な話題になっていた。酒井が心配している親の方が嘘をついているのではないかという可能性についても、工藤がそれまでとは違ったやや真剣な態度で否定する発言をしており、他の講師たちの反応からもやはり嘘をついているのは岸田ユイの方であると読み取れる。学院でむすめがそんな嘘をついているということを聞いたときの親の心情を示す表現もあわせて書こう。